

# 決算説明会

## 2014年3月期第1四半期

2013年7月31日  
ミネベア株式会社

ボールベアリング、LEDバックライトなど  
主要製品の需要が増加中

(百万円)	2013年3月期		2014年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	68,621	71,601	85,317	+24.3%	+19.2%
営業利益	3,693	△474	3,538	-4.2%	N.M.
経常利益	3,368	△1,587	3,068	-8.9%	N.M.
四半期純利益	1,718	△2,992	2,852	+66.0%	N.M.
一株当たり 四半期純利益(円)	4.57	△8.02	7.65	+67.4%	N.M.

為替レート	13/3期1Q	13/3期4Q	14/3期1Q
US\$	80.77円	90.08円	97.72円
ユーロ	104.89円	120.02円	126.96円
タイバーツ	2.60円	3.00円	3.30円
人民元	12.76円	14.44円	15.84円

2013年7月31日

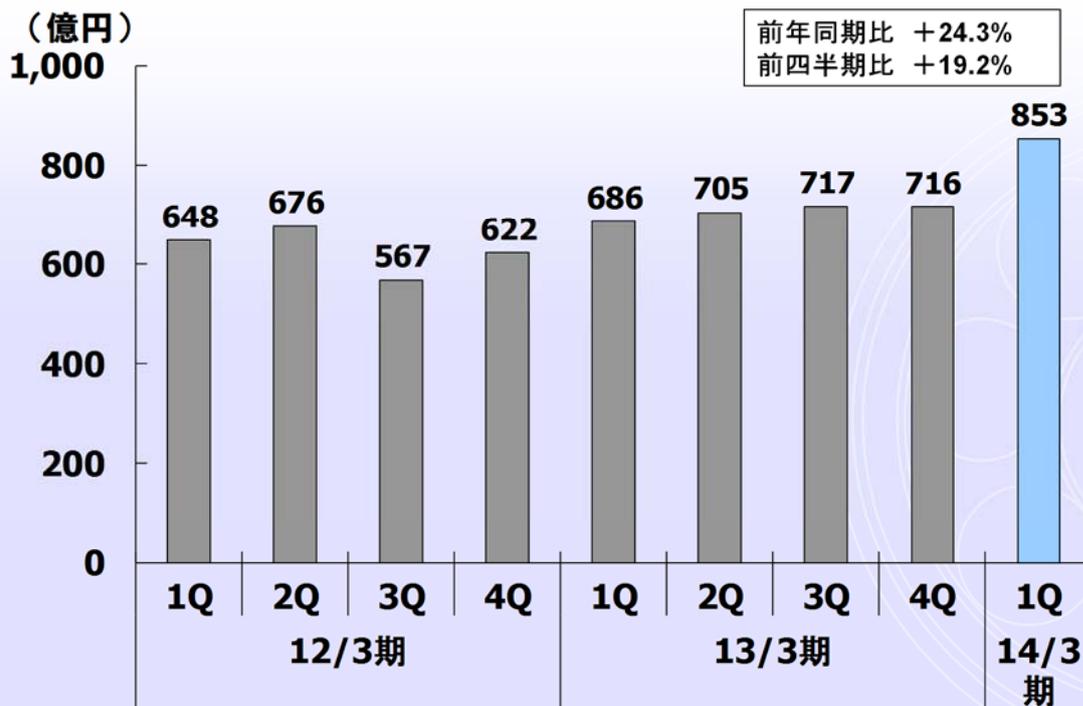
1

2014年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で24.3%増、前四半期比で19.2%増の853億1,700万円、営業利益は前年同期比で4.2%減、前四半期比で40億1,200万円改善の35億3,800万円となりました。

当社の主要製品であるボールベアリング、LEDバックライトなどが好調です。ボールベアリングは世界経済の伸びによる需要増加、LEDバックライトはスマートフォン市場の成長によって売上高、利益ともにめざましい勢いで伸びています。HDDスピンドルモーターや情報モーターなどのモーターは構造改革施策の効果に加え、販売数量が増加しており、稼働率の上昇で単月黒字化を達成しました。

前年同期比で減益となった理由は、主に前年同期はHDD市場がタイ大洪水からの回復に伴う特需によりピボット需要が旺盛だったためです。

為替の影響は、対前四半期では売上高でプラス55億円、営業利益でプラス2億円ありました。売上高では円安の進展による大きなプラス効果がありましたが、一方でタイバーツ、人民元等アジア通貨高による製造コスト増加があり、営業利益ではわずかなプラスにとどまりました。対前年同期では売上高でプラス141億円、営業利益でプラス3億円の影響があったと推計しています。

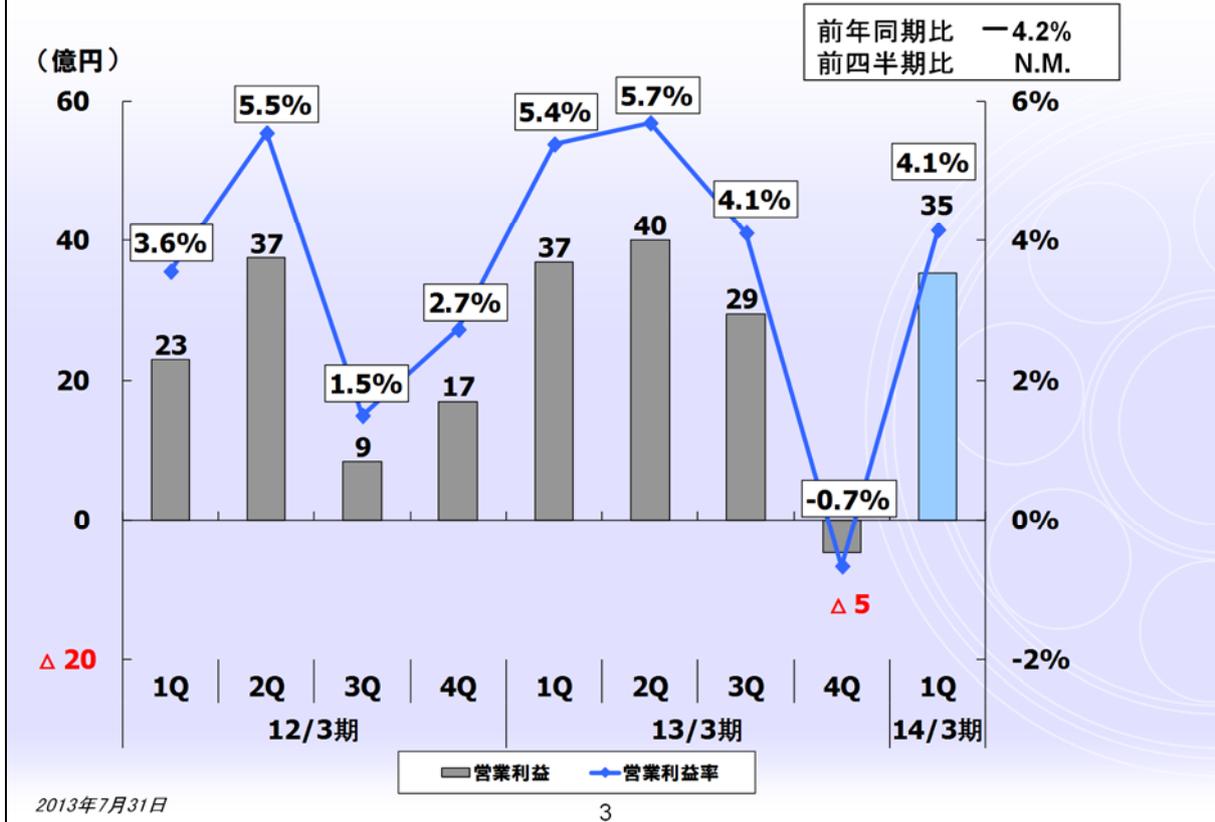


2013年7月31日

2

第1四半期の売上高は、円安に加え、各種製品の販売数量拡大から、前四半期比19.2%増の853億円となりました。

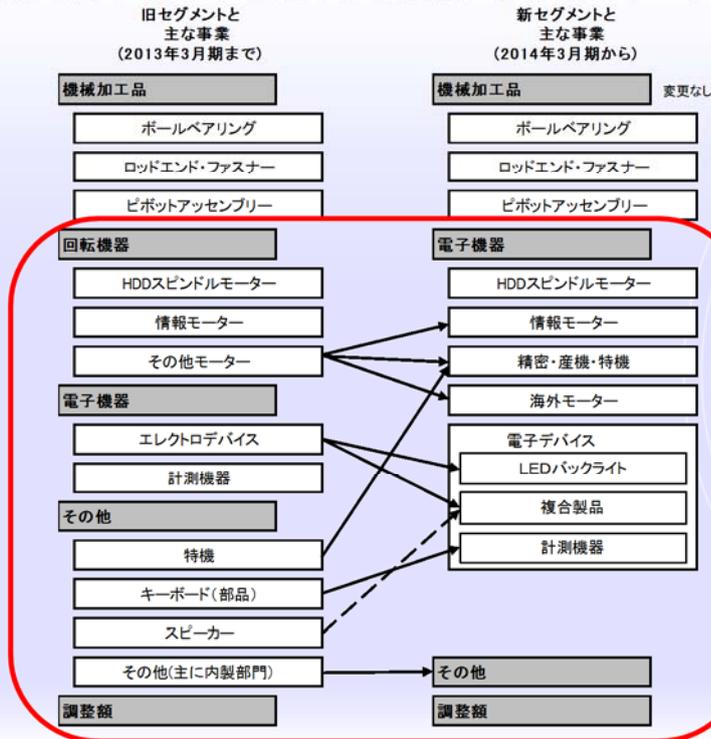
今後もしばらくは、需要の増加傾向が続き、ボールベアリング、LEDバックライトなどの伸びを中心に増収が続くと見込んでいます。



第1四半期の営業利益は、前四半期から40億円改善し35億円、営業利益率は4.8ポイント改善し4.1%となりました。

第1四半期の営業利益は月を追うごとに増加しています。第2四半期以降の営業利益も、稼働率上昇やコスト削減策の進展などにより更なる収益性の改善が見込まれます。

## 機構改革に伴い、2014年3月期から事業セグメントを変更。



2013年7月31日

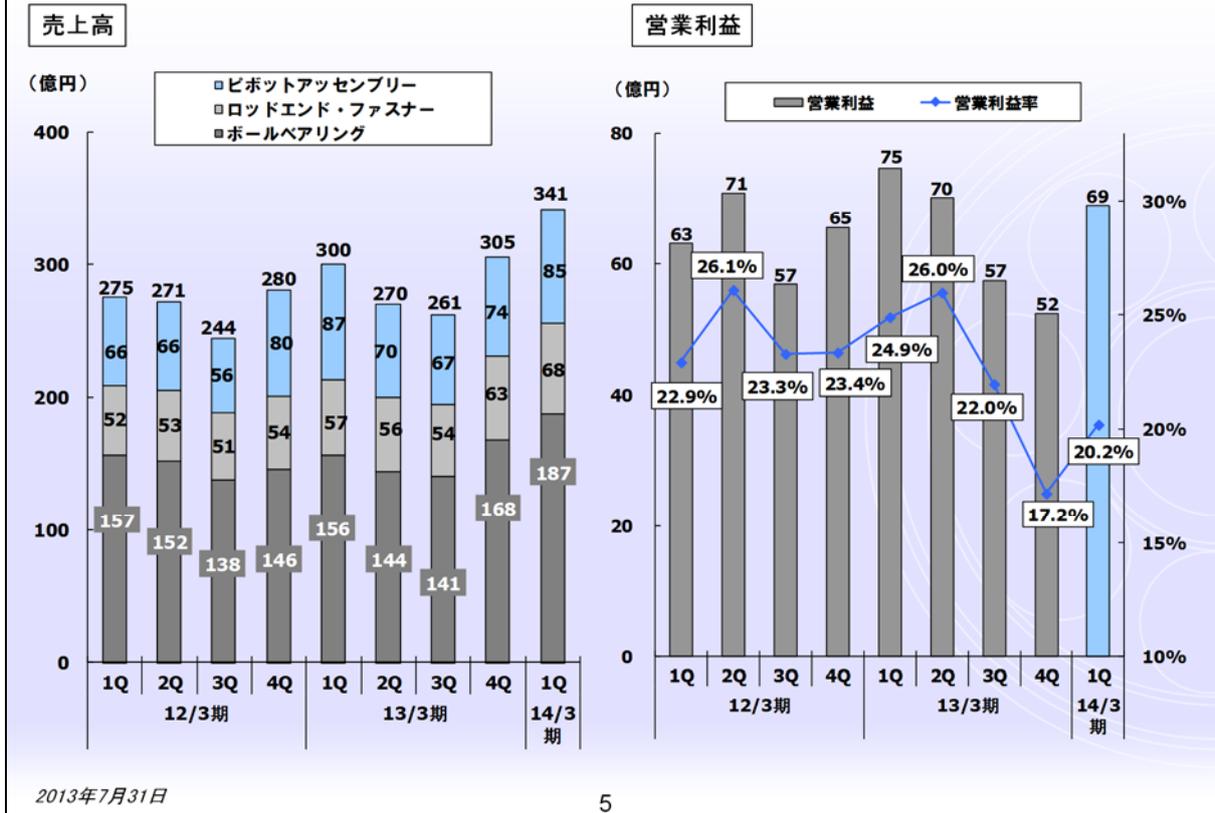
4

4月に行なった機構改革に伴い、今年度から事業セグメントを変更しました。

新たな事業セグメントは、機械加工品、電子機器、その他の3区分となります。それぞれのセグメントに含まれる主な事業は図の通りです。

赤線でくくった部分の変更となったセグメントです。新たな電子機器セグメントはおおまかに旧回転機器セグメント、旧電子機器セグメントに加えてほとんどの旧その他セグメントが含まれます。

一方、機械加工品セグメントはこれまでと変わりません。



機械加工品事業セグメントの第1四半期の売上高は、前四半期比11.8%増の341億円、営業利益は前四半期比31.4%増の69億円となりました。営業利益率は、前四半期から3.0ポイント上昇し20.2%となりました。売上高は円安の影響もありましたが、販売数量も伸びています。稼働率の上昇で収益率が改善し営業利益は大幅に増加しました。

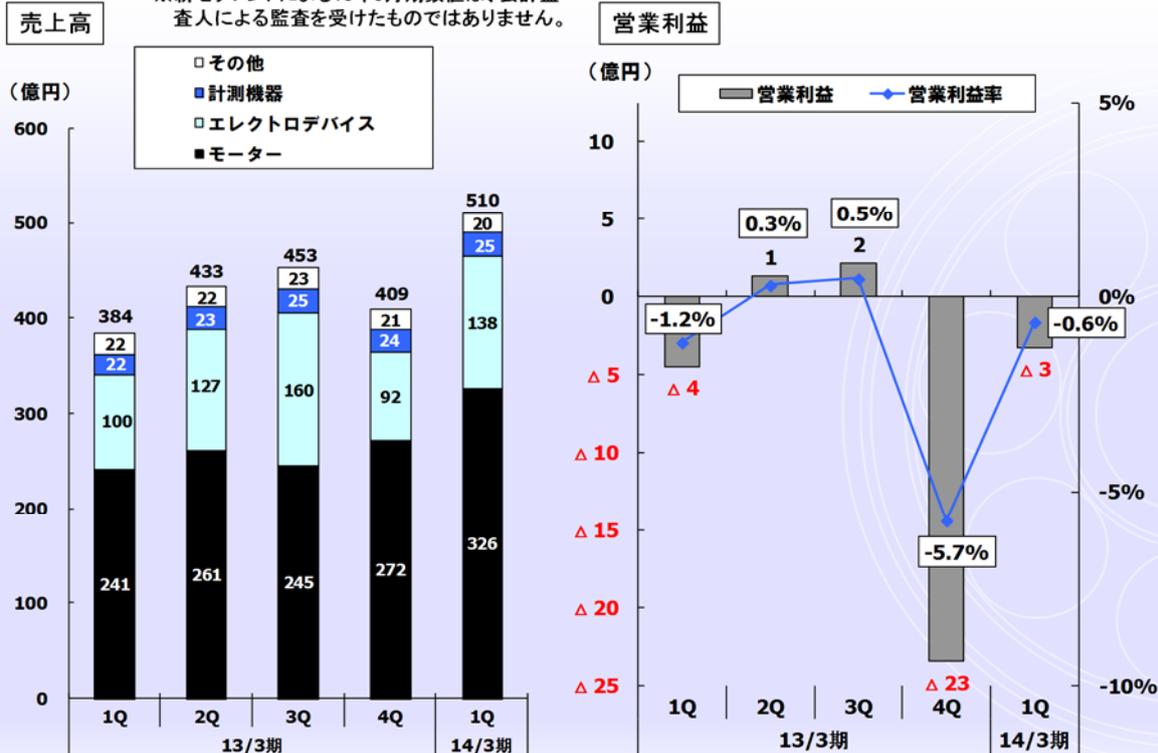
一方、前年同期比では売上高で13.8%増、営業利益では7.7%減となりました。これは前年同期はHDD市場がタイ大洪水からの回復に伴う特需により、ピボット需要が旺盛だったためです。

ボールベアリングの売上高は、前四半期比11.3%増の187億円となりました。年初に冷え込んでいた需要が3月頃から動き始め、5月の外部販売数量は過去最高を記録しました。地域別には中国、用途別にはFAを除いたほとんどの用途先で伸びていますが、中でもサーバー用ファン、自動車、OA機器、ATM向けが好調でした。稼働率の上昇により採算が改善し、業績改善のけん引役となっています。7-9月も外販を中心に好調な出荷が続く見込みです。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は、好調な航空機需要に伴う販売の増加により、前四半期比7.9%増の68億円となりました。今後も、中期的に航空機需要は好調に推移する見込みであり、タイ工場での生産能力の拡大を通じて拡販体制の整備とコスト削減を進め、利益の積み上げに取り組んでいきます。

HDD市場は、PC販売の低迷を主因に横ばいで推移しましたが、ハイエンド品は好調で当社のピボットアッセンブリーはハイエンド品向けに引き続き高いシェアを維持し、売上高は前四半期比14.9%増の85億円となり利益も増加しました。HDD市場全体は年を通して横ばいで推移すると見込んでいます。

※新セグメントによる13年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。



2013年7月31日

6

新電子機器セグメントの第1四半期売上高は前四半期比24.7%増の510億円となりました。営業損益は赤字幅が20億円縮小し3億円の損失、営業利益率は5.1ポイント改善しマイナス0.6%となりました。

モーターの売上高は、前四半期比19.9%増の326億円となりました。前期第4四半期に実施した構造改革施策による様々な固定費削減効果に加え、全般的に堅調な需要を後押しにHDDスピンドルモーター及び情報モーターの売上が拡大し、稼働率上昇によって部品製造部門を含めると単月で黒字化を達成しました。

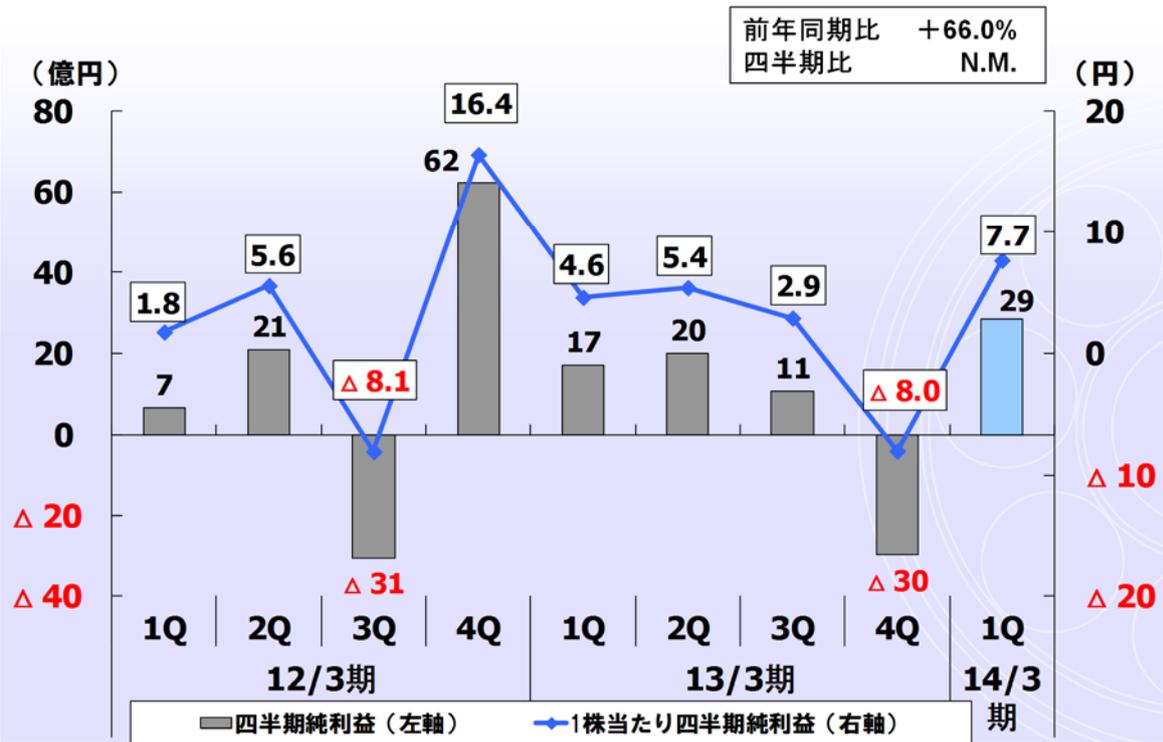
エレクトロデバイスの売上高は、前四半期比50%増の138億円となりました。スマートフォン向けLEDバックライトの売上が5月より急激に増加したことにより生産効率が改善し、収益の改善が進みました。第2四半期の出荷額は第1四半期をさらに上回る見込みです。

新電子機器セグメント全体で第2四半期での黒字化とその後の収益貢献を目指していきます。

# 純利益

四半期推移

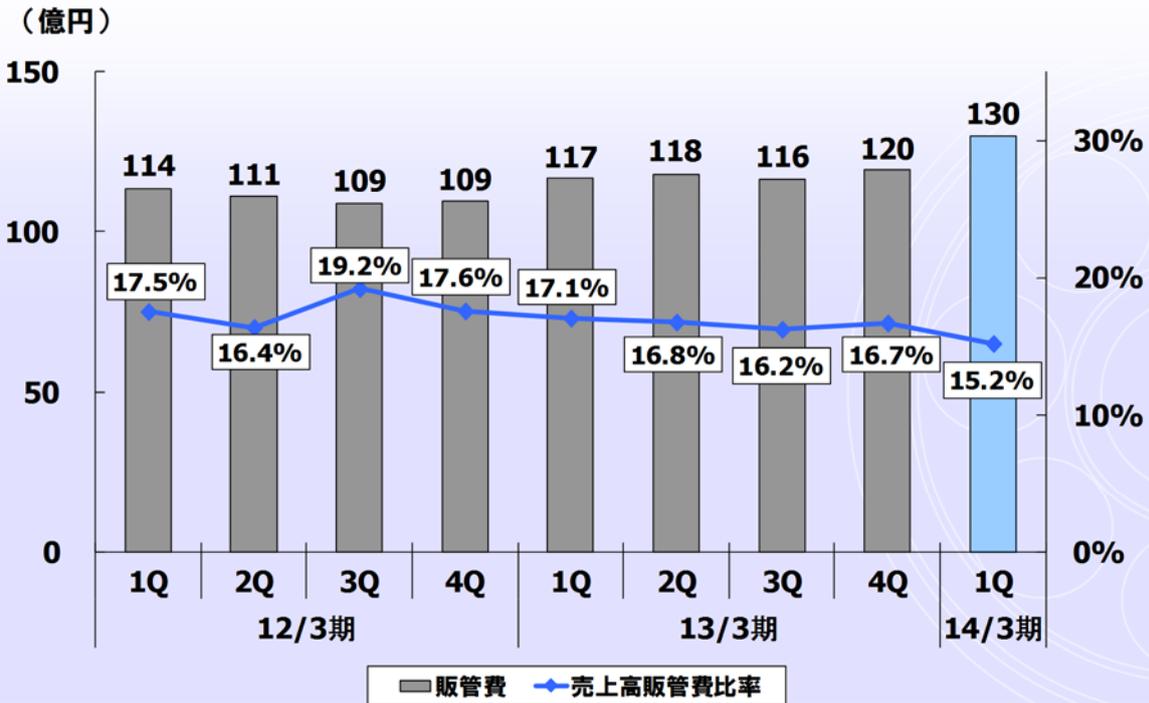
**Minebea**  
Passion to Exceed Precision



2013年7月31日

7

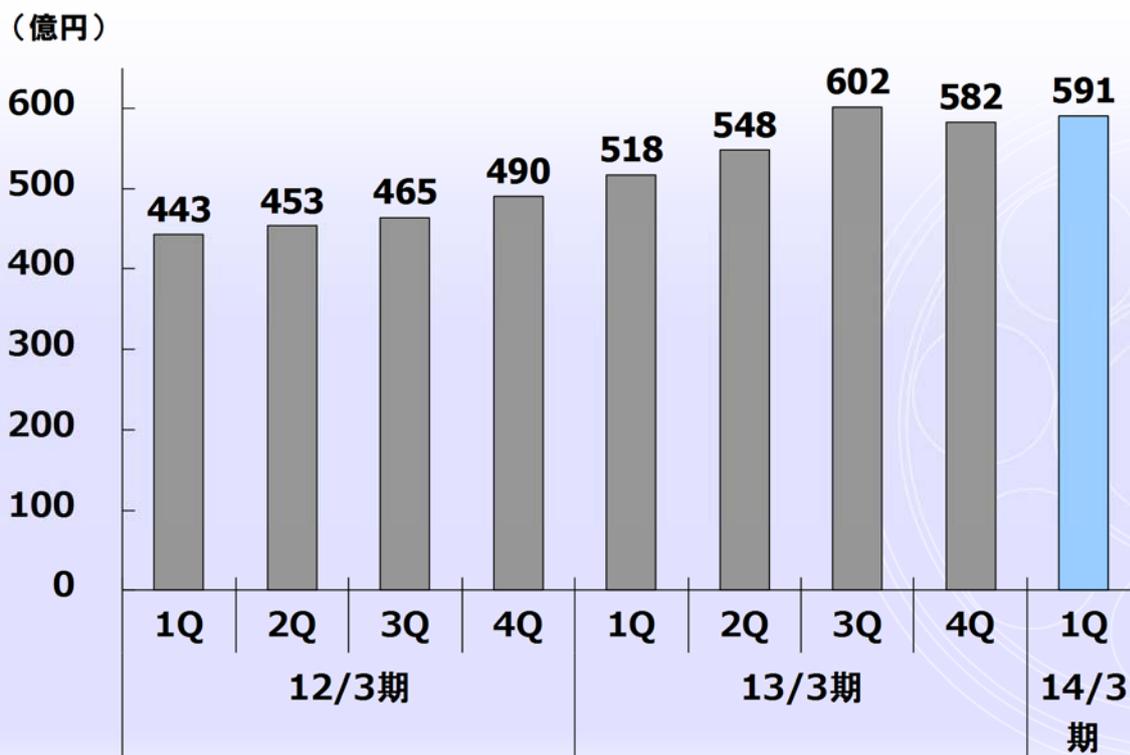
第1四半期の純利益は、前四半期比59億円改善し29億円となりました。これは営業利益の黒字化に加えて、4月に行った情報モーター子会社の吸収合併に伴う繰延税金の適用による法人税の減少が主な要因です。一株当たり純利益は7.7円となりました。



2013年7月31日

8

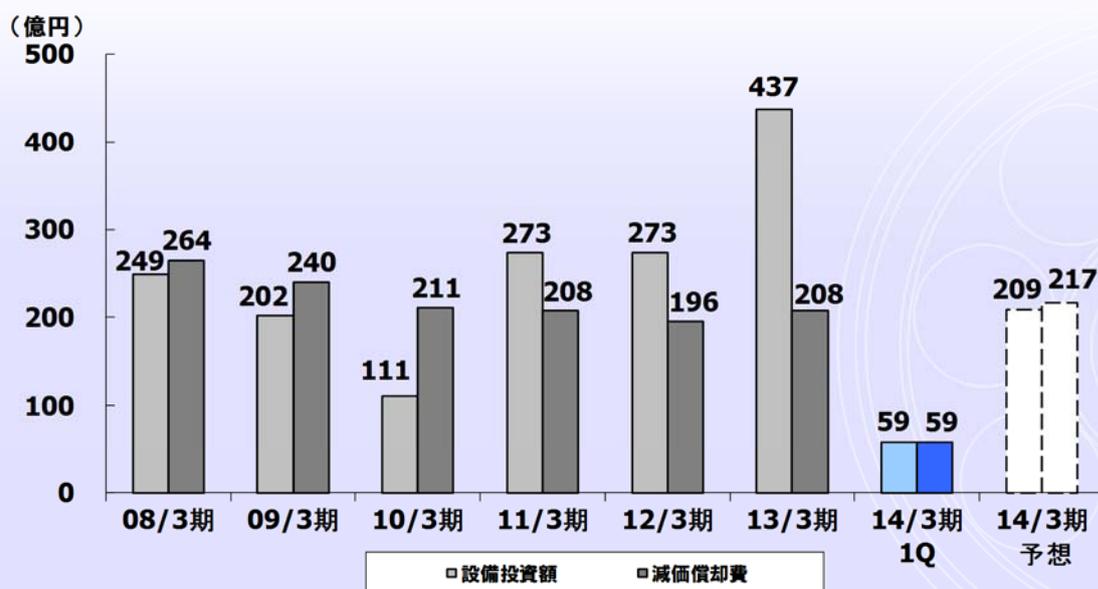
販管費は、前四半期比10億円増加の130億円となりましたが経費管理に努めたため、売上高販管費比率は前四半期比で1.5ポイント低下し15.2%となりました。



2013年7月31日

9

第1四半期期末のたな卸資産は前期末比9億円増加しました。円安効果が15億円あったため、実質では6億円減少となりました。



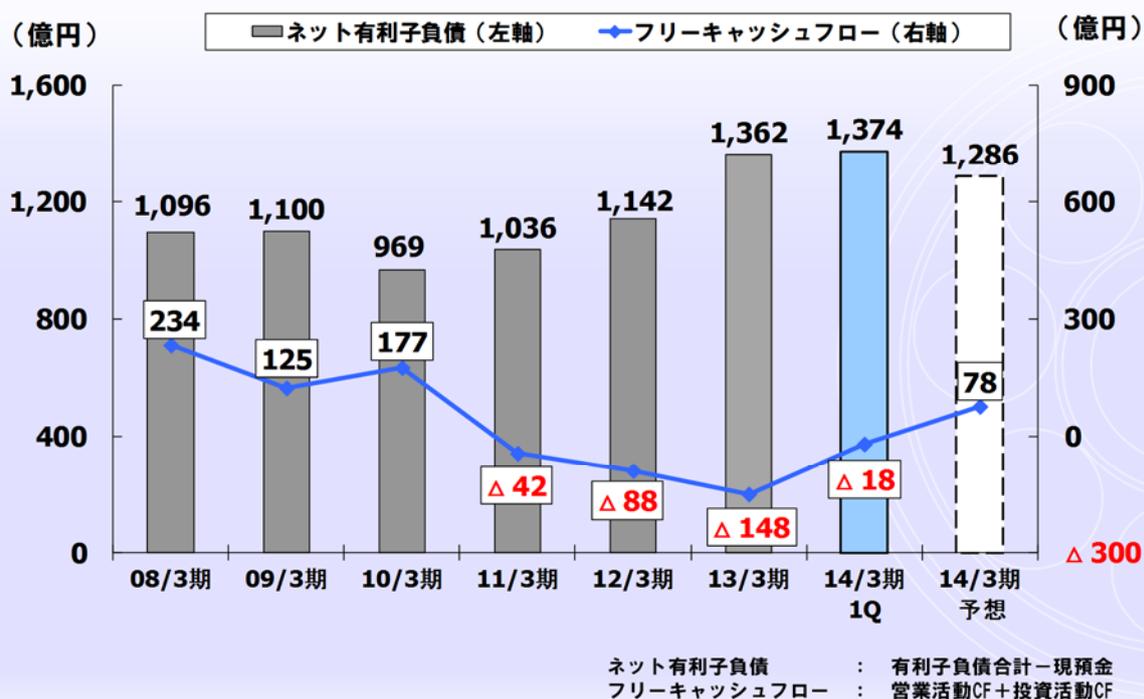
※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2013年7月31日

10

第1四半期の設備投資は59億円、減価償却費は59億円でした。

過去3年間、成長分野の生産能力増強のため、積極的に設備投資をしてきましたが、今期は投資を抑制し財務体質強化に注力していきます。



2013年7月31日

11

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第1四半期末におけるネット有利子負債は1,374億円となり、前四半期末比12億円の増加となりました。これは、期末配当や賞与支払い等資金需要が増加した事に加え、後に説明するゼロベア社を買収したためです。フリーキャッシュフローは18億円のマイナスとなりました。

今期は利益の大幅な改善が見込めるため、フリーキャッシュフローは78億円のプラスに転じる見込みです。投資の抑制、在庫の削減などキャッシュフロー創出に努めることで、今後はネット有利子負債を削減してゆく予定です。

**上半期業績予想を上方修正**  
**ボールベアリング外部販売の増加、LEDバックライト事業の成長、**  
**モーターの赤字縮小などにより大幅な業績改善へ**

(百万円)	2013年3月期		2014年3月期				
	通期	上半期 従来予想	上半期 修正予想	増減額	下半期予想 修正なし	通期 修正予想	前年比 伸び率
売上高	282,409	155,500	178,500	+23,000	164,500	343,000	+21.5%
営業利益	10,169	6,800	10,000	+3,200	9,200	19,200	+88.8%
経常利益	7,673	5,600	8,800	+3,200	7,900	16,700	2.2倍
純利益	1,804	3,800	6,500	+2,700	4,700	11,200	6.2倍
一株当たり 純利益(円)	4.83	10.18	17.43	+7.25	12.61	30.04	6.2倍

(下半期は変更なし)

為替レート	2013年3月期	2014年3月期 1Q実績	2014年3月期 2Q想定	2014年3月期 下半期想定 変更なし	2014年3月期 通期想定
	US\$	82.33円	97.72円	100.00円	90.00円
ユーロ	106.48円	126.96円	130.00円	120.00円	124.24円
タイバツ	2.67円	3.30円	3.20円	3.00円	3.13円
人民元	13.08円	15.84円	16.20円	14.40円	15.21円

2013年7月31日

12

これは、今期2014年3月期の業績予想をまとめたものです。

第1四半期は計画に対して好調なスタートを切ることができました。この実績を勘案し、さらに第2四半期の予想を見直し、5月に発表いたしました期初予想を上方修正いたします。なお下半期の予想の変更はありません。

製品別では主力製品のボールベアリング外部販売の増加、LEDバックライトなどの売上拡大、モーターの収益改善により今期は大幅な業績改善を見込んでいます。

(百万円)	2013年3月期		2014年3月期				前年比 伸び率
	通期	上半期 従来予想	上半期 修正予想	増減額	下半期予想 修正なし	通期 修正予想	
売上高	282,409	155,500	178,500	+23,000	164,500	343,000	+21.5%
機械加工品	113,573	61,500	68,000	+6,500	62,100	130,100	+14.6%
電子機器	167,911	93,600	110,000	+16,400	102,000	212,000	+26.3%
その他	924	400	500	+100	400	900	-2.6%
営業利益	10,169	6,800	10,000	+3,200	9,200	19,200	+88.8%
機械加工品	25,459	12,300	14,800	+2,500	12,600	27,400	+7.6%
電子機器	△2,452	140	1,160	+1,020	1,840	3,000	N.M.
その他	167	△40	40	+80	160	200	+19.8%
調整額	△13,004	△5,600	△6,000	-400	△5,400	△11,400	-12.3%

※新セグメントによる2013年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

2013年7月31日

13

新しいセグメント別の業績予想はこの通りです。

## 米国子会社New Hampshire Ball Bearings, Inc. (NHBB)はドイツのCEROBEAR GmbHの全株式を取得した

- ・セロベア社は欧州及び米国の航空宇宙産業、医療機器、半導体製造装置、工作機械等幅広い用途向けに、特殊セラミックベアリング等を手がける。
- ・セロベア社のセラミックテクノロジーの導入により、ミネベアの得意とする航空宇宙産業に向けた特殊ベアリングの開発を進め、製品ラインアップ拡充と競争優位性の確立を図る。



ギアボックス向けハイブリッドベアリング



セラミックローラーベアリング

2013年7月31日

14

米国子会社によるセロベア社買収についてご説明します。

このたび、米国子会社NHBBはセラミックベアリングの世界的リーダー企業であるドイツのセロベア社の全株式を取得しました。

セロベア社はドイツに工場を持ち、欧州、米国で航空宇宙産業、医療機器、半導体製造装置、工作機械など幅広い用途向けに特殊セラミックベアリングやハイブリッドベアリングを手がけています。

スライドの写真は航空機エンジン用ギアボックス向けのハイブリッドベアリングと医療機器向けセラミックローラーベアリングです。

セラミックベアリングは軽量であるだけでなく、高速、低摩擦、耐腐食性にも優れており、標準的なスチール製のベアリングが対応できない極端な条件つまり、高温・乾燥状態などの特殊な環境下での使用が可能で、今後は航空宇宙産業での採用が拡大すると予想されています。当社はこの買収によりセラミックテクノロジーを収得し、新製品の開発を進めることで製品ラインアップを拡充し、航空宇宙産業向けビジネスをより強化していきます。

ミネベアの航空宇宙産業向け売上はロッドエンドを中心に前期で約270億円ですが、3年後の2016年3月期には400億円に拡大する計画です。

# ミネベア株式会社

## 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送を行わないようお願いいたします。